

臨時特集 主要資材の価格動向

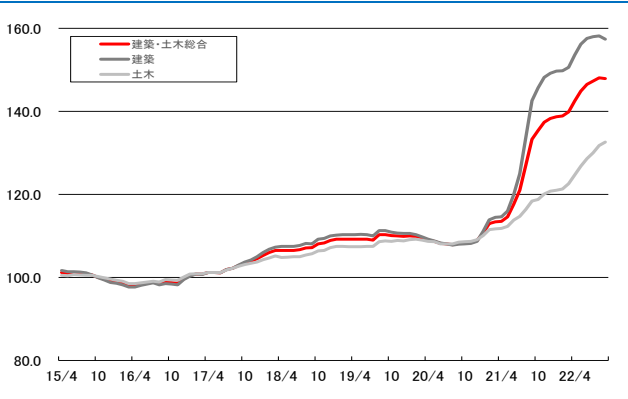
建設資材価格指数が前月比-0.2ポイントと2年振りに前月を下回る

1. 建設資材価格指数 (https://www.zai-keicho.or.jp/service/build/price/index.html)

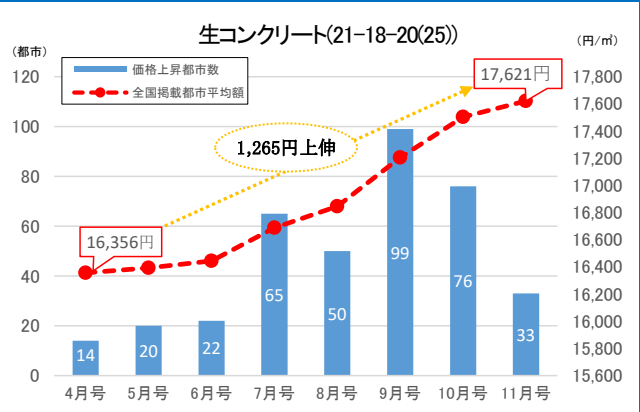
当会9月調査に基づく建設資材価格指数(全国・2015年度平均=100)は、建築・土木総合で前月比-0.2ポイントの147.9となった。前月の値を下回るのは2020年8月調査以来で、2年振りに前月比でマイナスとなった。これまで騰勢が続いてきた異形棒鋼やストレートアスファルト、一般建築用木材の価格が反落しており、これらが指数を押し下げた格好。しかし、生コンクリートやH形鋼、型枠用合板などの騰勢は続いており、指数も前年同月比では+14.6ポイントと依然として高い水準を維持している。資材によって市況感に温度差が生じており、騰落相半ばする形で建設資材価格指数は踊り場局面を迎えている。

特に生コンクリートは、原材料であるセメントの騰勢やエネルギー価格の上昇を背景とした製造・輸送コスト増を販売価格に転嫁する動きが続いている。「積算資料」掲載都市では2022年4月以降、延べ379地区の価格が上昇した。セメントの再値上げが打ち出される中、引き続き全国各地で強含み推移となろう。

建設資材価格指数(全国・2015年度平均=100)



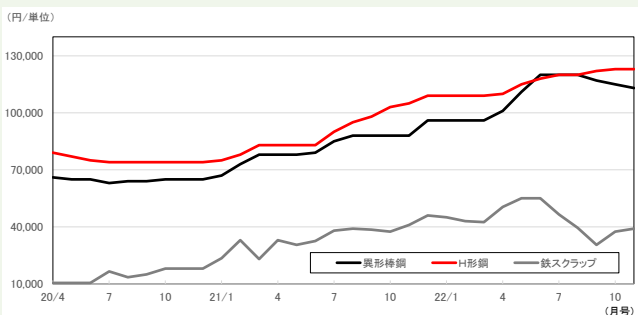
積算資料 2022年4~11月号 全国生コンクリート市況動向



2. 11月号の主な資材の動向 (東京地区)

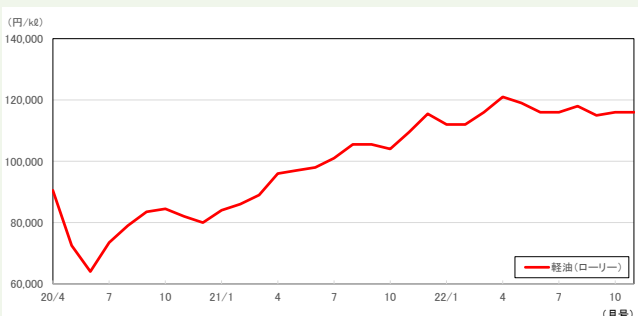
鋼材類	単位	価格(円)	先行き
異形棒鋼(SD295 D16 ②)	t	113,000	➡
H形鋼(200×100×5.5×8 mm ②)	t	123,000	➡
鉄スクラップ(H2)	t	39,000	📉

異形棒鋼は軟調な原材料市況の影響を受け前月比t当たり2,000円下落。これで3カ月連続の下落となった。一方、H形鋼は堅調な需要が下支えし、横ばい推移。



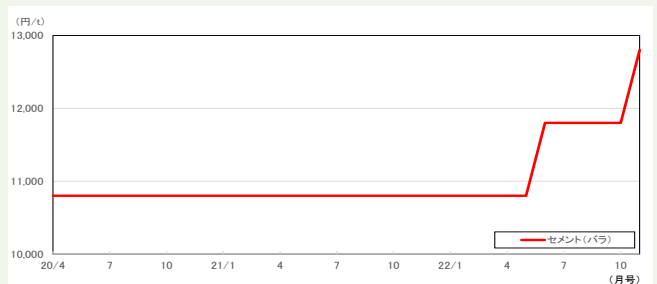
燃料類	単位	価格(円)	先行き
軽油(ローリー)	kℓ	116,000	📈

軽油は流通業者が採算重視の姿勢を継続し横ばい推移。原油相場に先高観が生じていることから先行きは強含み。



セメント	単位	価格(円)	先行き
セメント(普通ポルトランド(バラ))	t	12,800	➡

メーカーの値上げが浸透し前月比t当たり1,000円上伸。メーカー側は再値上げを打ち出しており今後の動向も注目。



木材類	単位	価格(円)	先行き
コンクリート型枠用合板(無塗装品ラワン 12×900×1800 mm)	枚	2,200	➡
杉正角材(KD)(3.0m×10.5×10.5 cm 特1等)	m³	105,000	📉

コンクリート型枠用合板は産地高が続くも荷動き鈍く22カ月ぶりに前月比横ばい。一方、杉正角材は輸入材の入荷量が回復し需給が緩んだことから前月比m³当たり5,000円下落。

